

去勢手術について



去勢手術の目的

- ①望まない交配、スプレー行動の回避
- ②精巣・前立腺などの病気の回避
- ③発情ストレスの軽減
- ④性格のコントロール（顕著な変化は期待できません）

メスと比較して

緊急手術が必要になることもある病気を予防できるメスと比べて、オスの場合、何か症状があらわれてから去勢しても遅くありません。ただし、精巣が本来の位置に存在しない停留精巣（あるいは陰辜）が特に小型犬に多発しています。これは高率に腫瘍化しますので、早期の摘出をお勧めします。

また、雄猫は性成熟すると、臭い付けのために尿をまき散らすスプレー行動を始めます。この行動は去勢後も習慣になりやすいので、癖になる前に去勢されるとよいでしょう。



去勢手術のデメリット

- ①全身麻酔のリスク（年齢、健康状態により変化します）
- ②太りやすくなる（食事量の管理で対処できます）
- ③超早期の去勢により生殖器の発育が悪くなる



去勢適齢期

『手術を受けるペットが元気で、食欲があるとき』

『目安として生後6カ月ていど』

最近、海外では早期の避妊、去勢の流れになってきていますが生殖器官が発育与える影響も考え、現在のところ当院では6カ月程度からとしています。

一方で、高齢になるほど麻酔のリスクは高まりますが、術前検査と術中の十分なケアを行えば中年期以降でも手術は可能です。（別途料金がかかります）

症状があらわれてからの去勢をお考えの際は、病気の早期発見のために日頃から尿の量や色、便の状態などに気をつけてください。